



堀船中だより



“道徳の種をまく”

校長 鈴木 格也

先月、行われた滝野川体育館での運動会は、一人一人が競技に楽しく参加し、みんなでまとまり、大いに盛り上がりを見せたものでした。走ることが得意な生徒にとっては、全員リレーや選抜リレーがなかったのも、やや物足りなさがあったかもしれません。しかし、閉会式の際、生徒の皆さんの顔には充実感や達成感が得られた様子が見受けられました。ご来賓、保護者の皆様には朝早くから滝野川体育館にお出でいただき、生徒の活動する姿にご声援を送ってくださり、ありがとうございました。

さて、7月5日(土)学校公開週間の最終日に、道徳授業地区公開講座を実施し、来てくださった保護者の方々に道徳授業をご参観いただきました。2校時目の道徳授業では、道徳の内容項目「公正・公平・社会正義」についての題材を取り上げて行いました。(主題は以下の通りです。)

- 1年生 「いじめが起こらない社会にするため、自分の考えや言動を見つめ視野を広げる」
- 3 組 「自身が生活する学校や地域の中で、いじめやいじめにつながる状況について考え、自身の行動を振り返る」
- 2年生 「社会の一員としての自覚について考える」
- 3年生 「人権に関する知識や考え方を深め、共に大切なことを生きることについて考える」



授業参観後は、例年よりも大勢の保護者・PTAの方々が会議室にお集まりいただき、教職員と一緒に今日の道徳授業についての意見交換をしました。保護者・PTAの皆様、ありがとうございました。その後は、講師の東村山市立東村山第7中学校校長の阿久津 健一先生より、“道徳の種をまく”“そして、学校・家庭・地域で育てることが大切”との話がありました。

Q. 学校の「道徳」はどんなときに学ぶのか？

A. 登校から下校まで、学校生活の様々な場面で「道徳」を学ぶ機会があります。

「道徳教育」は日常生活のいかなる場面でも心を育むことができます。

Q. 道徳授業の目標(ゴール)は？

A. 生徒がすぐに行動化できることは求めず、「OOって大事だな」「昨日あんなことしちゃった。どうしよう。」「今日勉強したことは、この前のあのことと同じだ。」日常生活の中で考えて、行動できるようにすることが大切です。本時の内容について、すぐに全員が公正に、公平に行動できることを目標としてはいません。“道徳の種をまく”ことが大切です。

Q. 学校以外ではどんなことができるか？

A. 学校・家庭・地域がそれぞれの立場で、子どもの豊かな心を育む機会をもつことが大切です。

“道徳の種を育てる”ことです。

新校舎改築工事の様子(6月)

北区営繕課よりドローンで撮影した改築状況の写真をいただきました。

旧校舎の基礎杭を取り除くことに時間を要したようです。

猛暑の中ですが、工事が遅れないように頑張ってくれています。

